

生活交通確保維持改善事業に係る事業評価（案）について

協議趣旨

NPO 法人わだちが実施している竹岡地区交通空白地有償運送は、国の令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の計画認定を受けていることから、同事業実施要領等に基づき、自己評価（一次評価）を行い、令和6年1月末日までに国へ提出する必要があります。

このため、事務局作成の評価案を、富津市地域公共交通会議の評価としてよろしいか、ご協議いただくものです。

【参考】

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱 拠点
(協議会)

第3条

5 協議会は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

地域公共交通確保維持改善事業実施要領 拠点

8. 事業評価について

(1) 事業評価の実施

①自己評価（一次評価）

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価（以下「自己評価」という。）を行い、当該自己評価の結果を、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあっては、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業にあっては、補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の1月末までにそれぞれ協議会から、地方運輸局、神戸運輸監理部、地方航空局又は沖縄総合事務局（以下「地方運輸局等」という。）に報告するとともに、公表することとする。

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月25日

協議会名：	富津市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

富津市においては、市外へ通じる幹線交通である鉄道や地域間幹線を運行する路線バスを軸に、市域内に広範に廃止代替バスにより構成される公共交通網が広がっている。これらの公共交通については、商業施設や医療機関が集中している富津市北部や市から北に位置する木更津市の総合病院及び君津市の大規模な商店等が当市民の日常生活機能を担う中で、幹線交通ができない唯一の手段として、車を運転できない高齢者等を中心的に、生活に必要不可欠な交通として機能している。また、この幹線交通に通じる廃止代替バスが支線の役割を果たしている。

しかししながら、人口減少と自家用車の普及により、当市の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生し、一部地域では、幹線交通と廃止代替バスの乗り継ぎが不十分で、幹線道路から離れている集落については、そもそも交通手段が確保されていなかつたり、住民に不便を強いている状況にある。

このため、富津市地域公共交通計画では、「地域にあつた移動手段の導入」を目標とし、地域住民が主体となり、公共交通空白地域又はこれに準ずる地域において、地域と連携した地域特性等に即した移動手段の導入をすることとしている。また、地域公共交通確保維持事業により、既存の交通機関で移動手段の確保が困難な地域である竹岡地区を自家用有償運送により移動手段を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

（事業実施の目的・必要性）

令和5年度 富津市地域公共交通会議（千葉県富津市） (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通等の現況・課題

富津市の公共交通は、JR内房線(6駅)、東京湾フェリー、高速バス(5路線)、路線バス(8路線)及び5事業者によるタクシー運行がある。鉄道駅やバス路線沿線に人口の分布がみられるものの、市域に広く居住地が分散し、人口減少及び少子高齢化が進んでおり、また、市全体として、自家用車に対する依存度が非常に高く、78.1%が自動車を所有している(R4.8月実施、市民アンケート)ことから、各交通機関の利用者は全体として減少傾向にあり、公共交通サービスの維持確保が年々難しくなっている。

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

- ・交通計画の基本的な方針：地域の特性や実情に即した公共交通網の形成を目指す
- ・定性的な目標：地域にあつた移動手段の導入

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

「公共交通網の形成に関する基本的な方針」において掲げた方針及び目標の実現に向けて、各交通機関の利用促進や、地域にあつた移動手段の導入など全16事業を実施している。

主な実施事業としては、平成31年4月から、市内竹岡地区において、NPO法人の運営による交通空白地帯有償運送事業を開始した。今年度においては、昨年度に実施したダイヤ改正後、順調に利用者数を伸ばしており、その結果、利用者数は目標としていた700人を超えることができた(令和5年度利用者数823人、1運行あたり2.96人)。

また、令和4年12月からは、峰上地区にて当市における二つ目の自家用有償旅客運送となる「峰タク(デマンドタクシー)」が実証運行を開始し、地区内住民の移動手段として活躍している。

その他、令和元年7月から、運転免許証を保有していない高齢者等や運転が一時的に困難となる妊娠婦に対し、タクシー運賃の一部を助成する「富津市タクシー運賃助成事業」を実施している。

アピールポイント

竹岡地区交通空白地有償運送を行っているNPO法人は、本事業を担う以前から、同地区を拠点として、福祉有償運送事業を行っていた実績があり、運営スタッフもほとんどが地域住民であり、地区住民の移動ニーズを含めた生活実態といった情報について把握しやすい。
主な移動ニーズとなりうる通院需要に応えるため、沿線にある診療所の診療日に合わせ、火、金の週2回の運行日を設定している。



半島振興法

面 積	205,40km ²
人口 (R5.4.1時点)	41,536人
高 齢 化 率	39.5%

交通計画の計画期間

令和5年3月～令和9年3月

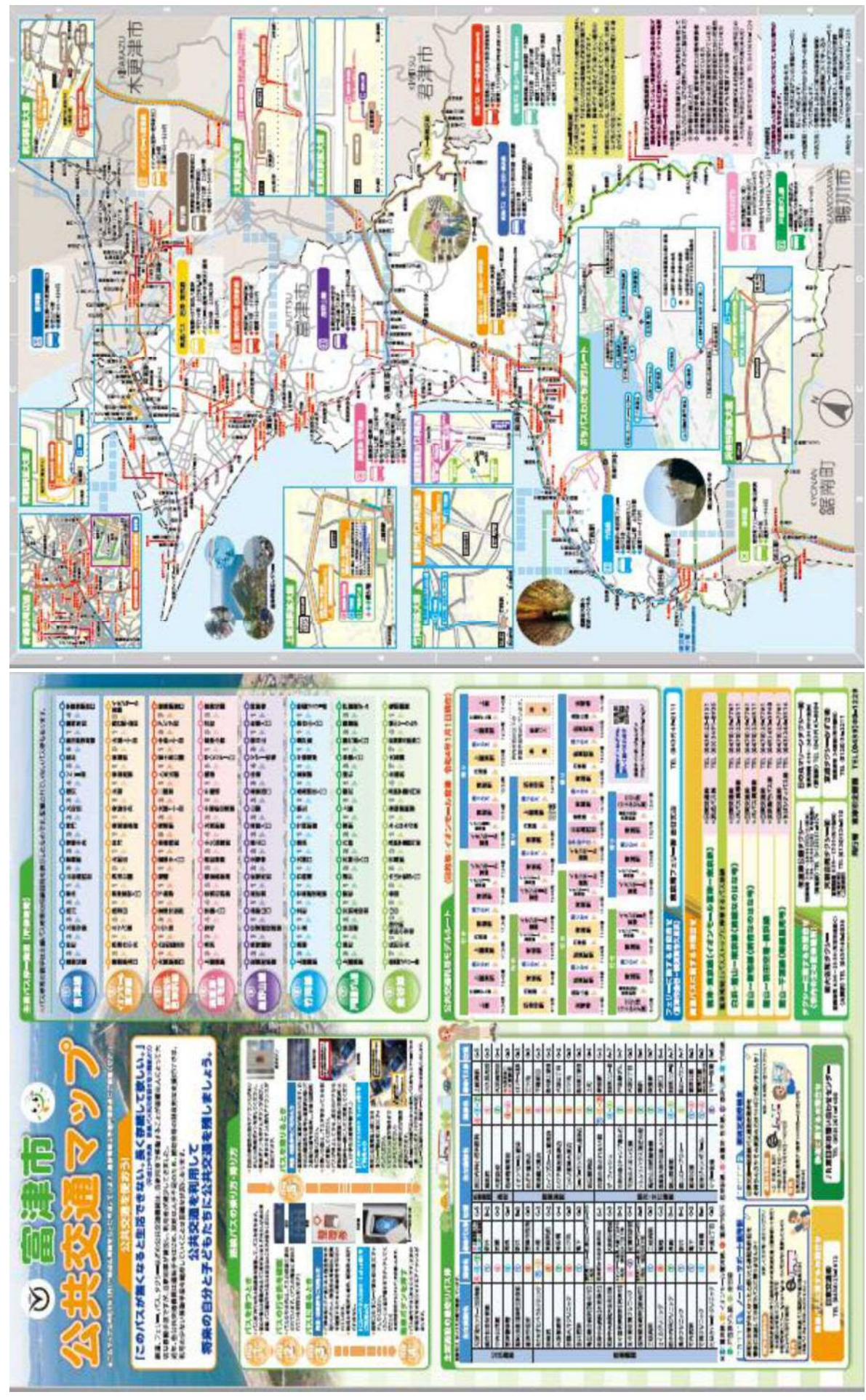
協議会開催状況

(令和5事業年度に係るもの)
第1回(令和5年6月)
・富津市地域公共交通計画に係る2022年度実施事業の評価及び2023年度事業計画(案)について
・富津市地域公共交通計画確保維持改善計画(案)について

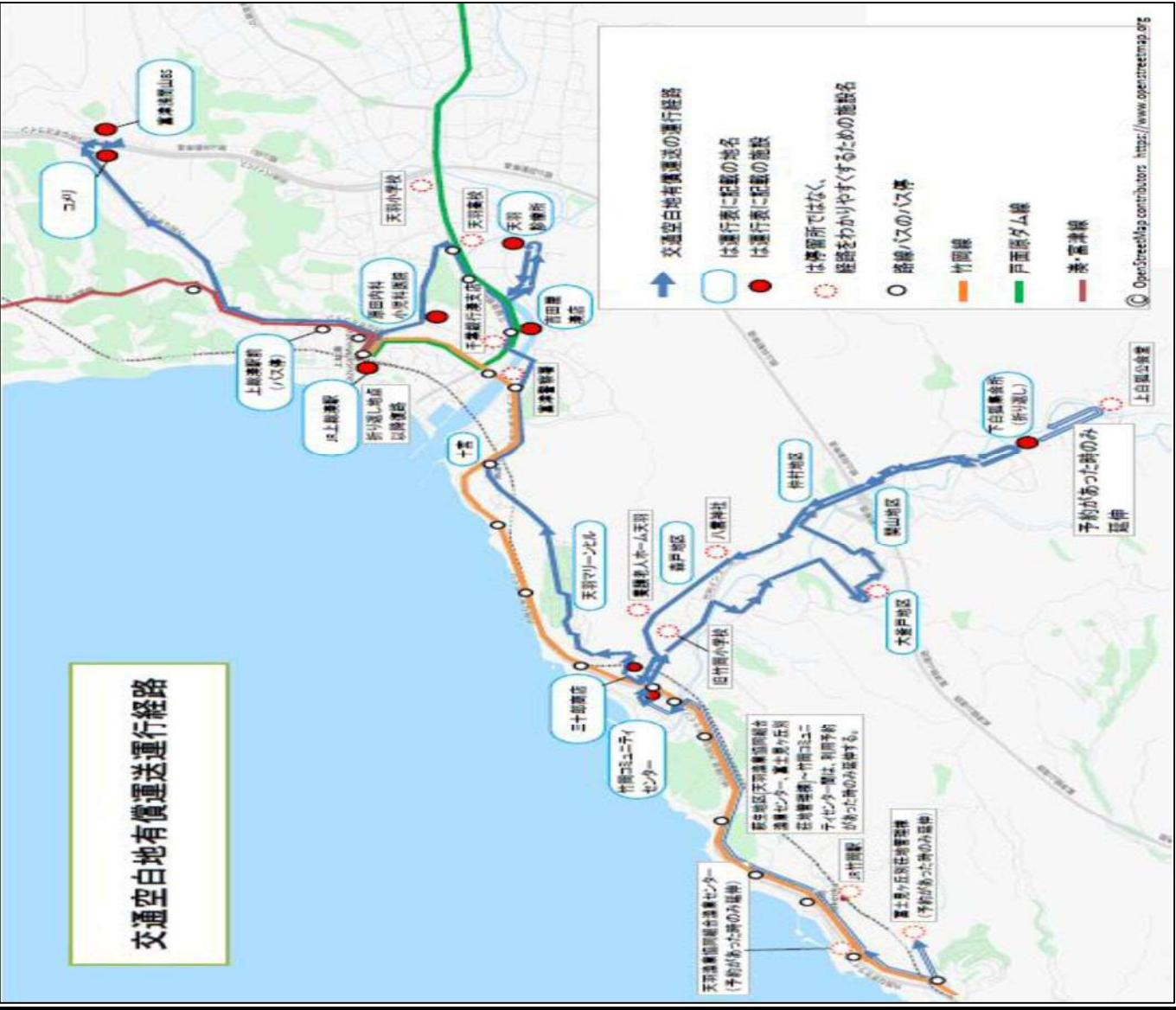
第2回(令和6年1月)
・峰上地区交通空白地有償運送事業「峰タク」の本格運行について(案)
・生活交通確保維持改善事業に係る事業評価(案)について

公共交通マップ

マップには、路線バスの乗り方、主要施設等の最寄バス停や所要時間、公共交通を利用したモデルルート、各交通機関の連絡先並びに運行経路及び各路線バスの乗り場等を掲載



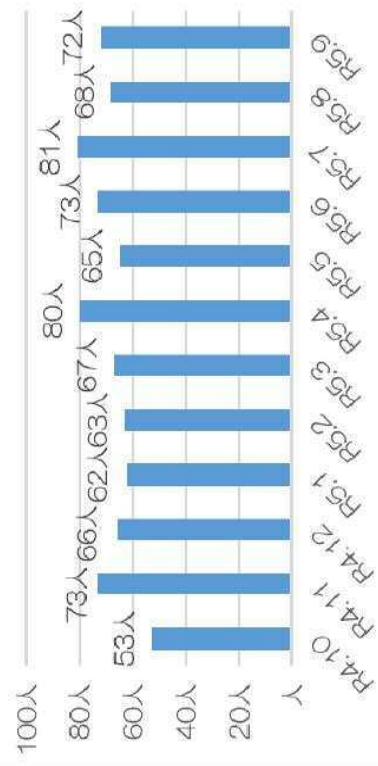
補助対象事業の運行系統図及び実績データ



令和5年度 (R4.10～R5.9) 利用実績

月	計画運行日数	計画運行便数	R5運行日数	R5運行便数	利用者数	利用者数 1運行あたりの 平均乗客数	1運行あたりの 乗客数
R4.10	8	28	9	23	53	2.30	46
R4.11	9	31.5	10	26.5	73	2.75	53
R4.12	8	28	9	23.5	66	2.81	47
R5.1	8	28	9	24	62	2.58	48
R5.2	8	28	9	22.5	63	2.80	45
R5.3	8	28	10	25	67	2.68	50
R5.4	8	28	9	22.5	80	3.56	45
R5.5	8	28	9	23	65	2.83	46
R5.6	9	31.5	10	23.5	73	3.11	47
R5.7	8	28	10	22.5	81	3.60	45
R5.8	7	24.5	8	19.5	68	3.49	39
R5.9	9	31.5	9	22.5	72	3.20	45
計	98	343	111	278	823	2.96	556

月別利用者数推移



経常収支 (R4.10～R5.9)

収入	321,900
支出	3,292,660
収支	$\Delta 2,970,760$
収支率	9.78%